

「令和6年度不登校児童生徒に対する支援推進事業」成果資料

光陽中学校区の強みを生かした 不登校児童生徒支援



旭川市立光陽中学校

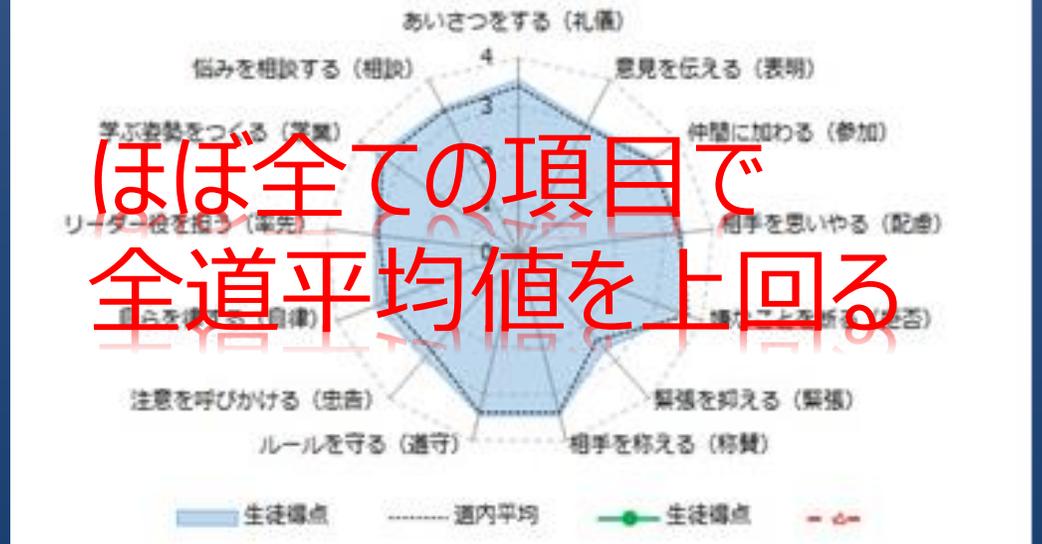
1 推進地域の状況-1

【光陽中学校区】について

- 市の中心部から比較的近い
(旭川駅から3km程度)
- 過去には1学年10クラスあったが、現在は、1学年2クラス程度
- 市営住宅やアパート・マンション等が立ち並ぶ市街地
- 商業施設、飲食店が多数あり、生徒指導上の配慮を要するが、現在は素直・素朴な児童生徒が多く、きまりを守り落ち着いた学校生活を送っている。

【生徒理解支援ツール「ほっと」の結果】

各項目別スキルの状況



1 推進地域の状況-2

【地域全体の課題】

- ▼ 自尊感情
- ▼ 学習・生活習慣
- ▼ 基礎学力
- ▼ 不登校

「1校だけ」ではなく
より長いスパンで
地域の力も借りながら

↓
【小中連携の必要感】



光陽中学校区小中連携会議

教頭・主幹教諭部会

教務部会

生徒指導部会

特別支援部会

構成員

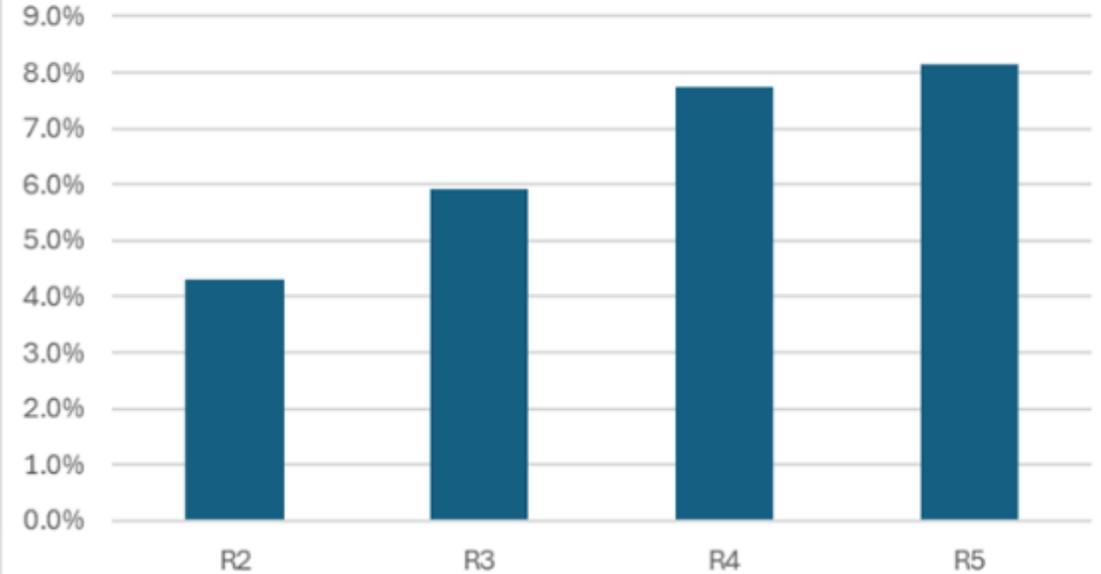
光陽中学校 校長 教頭 主幹教諭 教務部長 加配教諭 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

豊岡小学校 校長 教頭 主幹教諭 教務部長 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

東町小学校 校長 教頭 教務部長 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

旭川市教育委員会 主幹 主事

不登校生徒割合（全校生徒数比）の推移



コロナ禍を経て、不登校生徒が顕著に増加しており、全国的な状況ともリンクしている。

2 推進地域の目標、目指す学校像・子ども像

本事業の目標

『主体的に学び、よく関わり高め合う児童生徒の育成』

目指す学校像

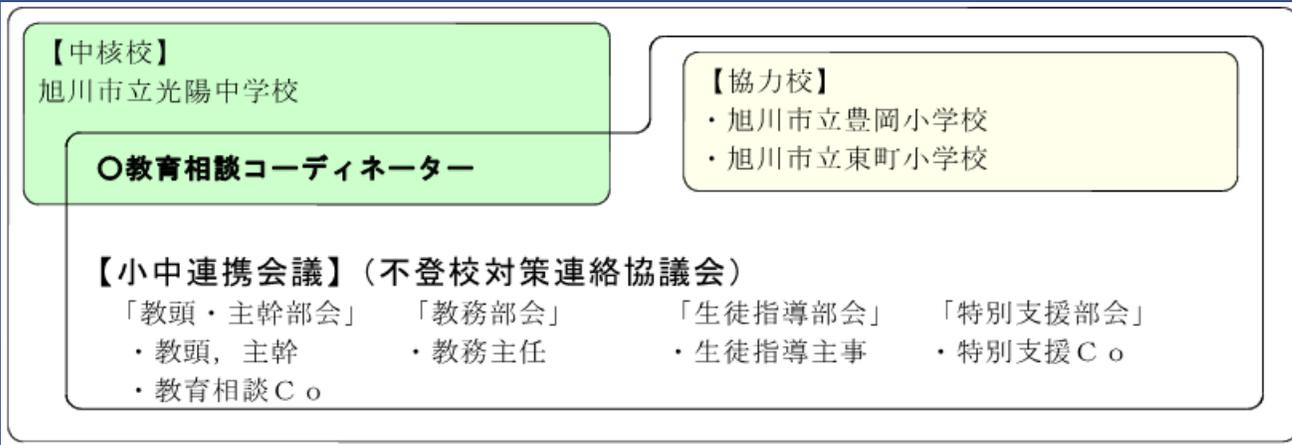
- 子どもの居場所があり、共に育つ魅力的な学校
- 学ぶ楽しさ、豊かな心や健やかな体が育つ学校
- 保護者・地域から信頼され、親しみがわき、地域に根ざした学校

目指す子どもの姿

- 主体的に学び、関わり合う高い知性をもつ子ども
- 他者を思いやりながら行動する心豊かな子ども
- 自己実現に向け、最後までやり抜く強い心と体をもつ子ども
- 夢や希望の実現に向け、よりよい生き方を目指す子ども

3 取組の概要

【事業推進体制について】



教育相談コーディネーターを要とした4部会による事業推進・小中連携体制の構築



小中3校の担当者による、協議・情報交流

令和6年度 光陽中学校区CS・小中連携（不登校対策）ロードマップ

実施主体	1学期				2学期				3学期			
	7月	8月	9月	10月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
不登校対策連絡協議会	協議会開催											
教育相談コーディネーター	個別相談実施											
教頭・主幹部会	校内研修実施											
教務部会	授業改善実施											
生徒指導部会	生徒指導実施											
特別支援部会	特別支援実施											

【ロードマップによるスケジュール共有】

- ◆不登校対策連絡協議会（年4～5回）
[①6/25、②9/3、③11/21、④2月を予定]
- ◆「不登校支援ガイドブック」を活用した校内研修の複数回実施
- ◆「ほっと」実施（①6月、②10月）
- ◆「心と身体のチェック」～長期休業前後に4回実施
- ◆特別支援学級小中合同行事（11月）
→各種アセスメント等を基に取組の検証改善を図る。
→取組成果をCSや学校通信等で保護者・地域に周知する。

【Google Classroomによるデータ等共有】

3 取組の概要

【多様な学びの場の設定】

校内教育支援センターの運用

不登校生徒・保護者からの要望を
教育相談Coに集約

生徒の状況(心理面・身体面)等を
分析・配慮しつつ行う支援を選択

学び支援をコーディネート
・朝の打合せ資料とリンクした支援シートで共有



外の景色を見て
リラックスしながら



他者との接触・干渉に苦痛を感じる生徒は
個別に仕切られたブースへ

日にち	学級 生徒氏名	校時	担当	学習場所	学習教科	○ 在校状況	退校した理由 下校する時間 下校した時刻	本人の様子・こちらから伝えた内容等
10/25	金	5校時	北林	センター	自主学習	○ 次の時間にも学習する 下校する	15 : 10	礼状のペン書きに入っていました。
		6校時	藤田	センター	自主学習	○ 下校する 下校した		福徳体験の手とめをスプレッドシートに入力していた。 みんなが帰る前に学校を出たいので、15時10分
		2校時	鈴木	センター	自主学習	○ 次の時間にも学習する 下校する		福徳体験の手とめ作成。習字と手のぬいでの項目で、他の人の習字がわからず困っていた。(場所はメモしている)。他の項目は慣れ親しんでいるので、書きはそこがのびてたが、次の時間は他の教科(算数)に書くつもり。
		3校時	村越	センター	自主学習	○ 次の時間にも学習する 下校する		同語やっていたが、質問事項のプリントを返すまでとめに入りました。30分ほどでレポート完成し、その後、国語のワークへ。
10/25	金	4校時	藤田	センター	○ 次の時間にも学習する 下校する			

教育相談Coによる
担当割り

担当者による支援
状況の記録・共有

- まずは、登校できる時間にできそうなことから
- 心身不調のときや、他の生徒との遭遇を避けたいときは、早めに下校することも
- 生徒にとっても、支援する教員にとっても心身への負担を減らし持続可能な取組へ

【学習支援の例】

- ◆ 自学自習 (教科書・タブレットでwebコンテンツ)
- ◆ 課題レポートの作成
- ◆ 授業の遠隔配信
- ◆ 学級活動の補助的作業によるクラスへの貢献

3 取組の概要

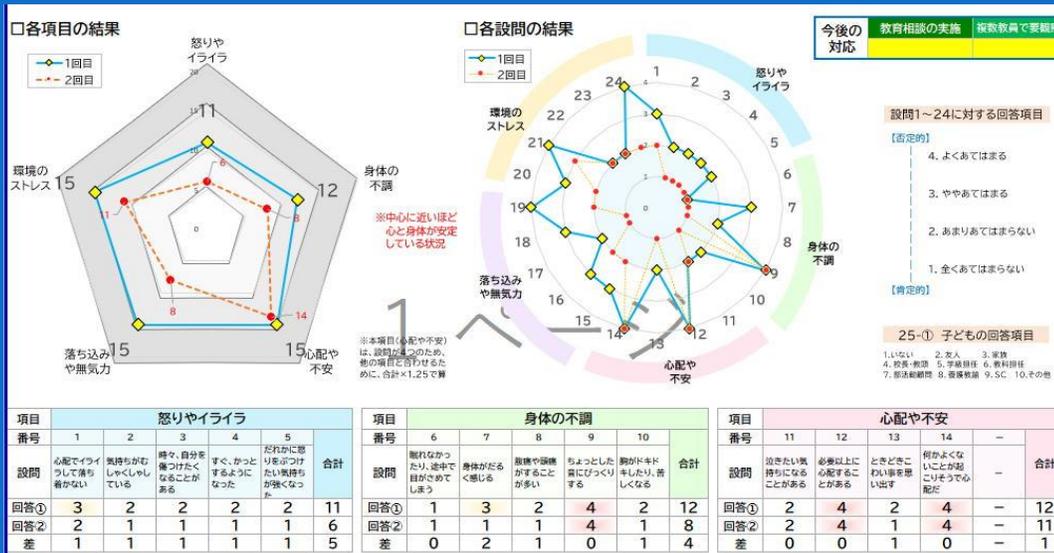
心のSOSの早期発見・早期支援
 「心と身体のチェック」(長期休業前後)
 「いじめアンケート」(年3回)
 「教育相談」(年3回以上)
 「いじめ対策組織」(毎週 管理職出席)
 「ほっと」(年2回以上)

学校づくり
 安心して学ぶ
 びーんがでかける

SC連携「心の授業」



1学年 「コンプリメントシャワー」



3 取組の概要

「誰にでもわかる授業」 を目指した授業改善

展開後半 ジャムボード

2章 正の数、負の数

いくつかの数の加法について、ジャムボードで計算過程を比較し、よりよい方法を考える。

新しいかたちの学び授業力向上推進事業への授業実践提供&成果共有

ついて効率的に共有することができます。

光陽中学校 学び設計シート -2024-

☆今年からは、タブレットを家庭に持ち帰ることができるので、忘れずに家で毎日の家庭学習の記録を入力することができます(*^o^*)

6月

科目	内容	学習時間	学習の目的とふりかえり
数学	正の数、負の数	15分	数直線を用いて加法の計算過程を比較し、よりよい方法を考える。

あなたのその他って何？
家で勉強した教科と内容につけよう

学習の内容とふりかえりに入力してね

「がんばった」×
「予定通りできた」×
↓

ICT活用研修

色も変えられる！

自動で名前が入力される！便利！！

クラウドを活用した学習習慣定着

安心して学びたい学校づくり

援助希求的態度の育成

ひとりで抱え込まずに話してみよう

もし、性暴力にあっってしまったら、友達が性暴力にあつたら、性暴力を目撃したら抱え込まないで、だれかに話してみよう。もし、周りの人に話せないときは、あけてくれるところがあります。

信頼できる大人に話そう

- 担任の先生、養護の先生、スクールカウンセラー
- 保護者、そのほかの身近な人 など

あなたを助けてくれるところ

性犯罪・性暴力被害者のための
ファーストステップ支援センター
(全国共通相談センター)
はやくファーストステップ
#8891

性犯罪被害相談電話
ハートビル
(全国共通相談センター)
はーとさん
#8103

- ### 計画的な指導
- ・命の安全教室
 - ・ネットトラブル防止
 - ・薬物乱用防止
 - …etc

担任、養教、SC、学年、部活顧問...
誰もが相談の窓口にも！



SOSを発しやすい風土の醸成

4 工夫・配慮した点

◆十分な面談・打合せ(本人・保護者)

- ★現在、どのような状況にあり
- ★どんな学びを求めており
- ★どのぐらいまでならできそう
- ★今後(将来)どうありたいか

なぜ不登校に？(原因)
どうしたら登校できる？(方法)
にこだわらず、生徒の「主体的意思」を尊重する。

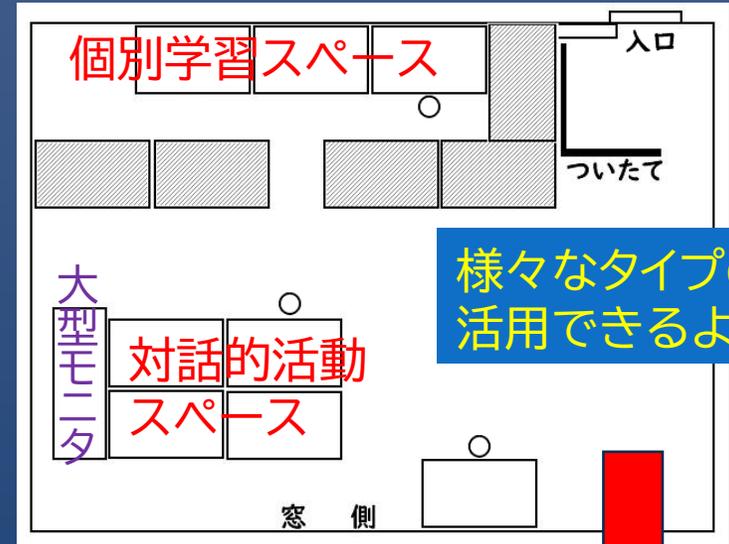
多様な学びの場から、「今」最適な支援は？

A 自宅でのICT を活用した学習 支援	B 校内教育支援 センターでの 学習支援	C 旭川市教育支援 センター(ゆっ くらす)等	D 不登校学級 への転編入	E その他
-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	---------------------	----------

見学・お試し等も視野に入れつつ、最適な支援を模索していく

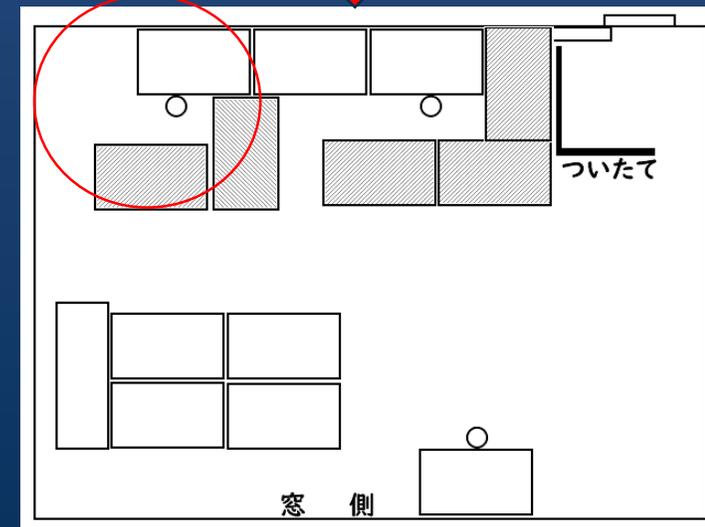
OODAループ→保護者・本人との打合せを基に「やれそうなことからやってみる」「ダメなら変えてみる」を意識

◆校内教育支援センターの工夫



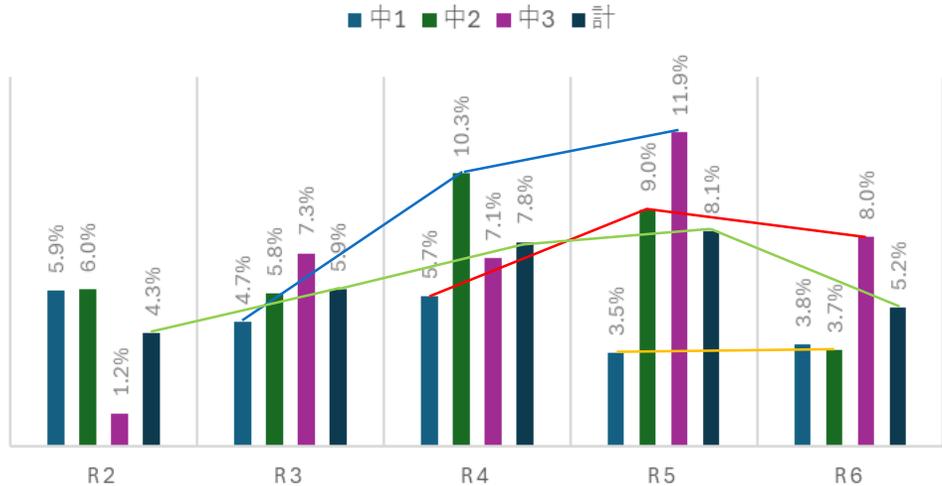
様々なタイプの生徒が活用できるように…

利用する他の生徒の動き・視線が気になる…



5 成果と課題

不登校生徒数の経年変化



※R6は年度途中のデータであることが前提として
●学年が上がるにつれ、増加傾向にあった不登校生徒の割合が抑えられている。
(青=R3入学生 赤=R4入学生 黄=R5入学生)
●全校生徒に占める不登校生徒の割合がR2からずっと上昇傾向にあったが、R6は減少に転じる見込みである。

校内教育支援センターを利用した生徒の声

- 他の人との接触がなく、自分の体調と合わせることができるのがいい。(2学年 生徒A)
- 静かな環境で、人とか変わりなく学習に取り組めて、心地よく登校できている。心身共に健康的な生活を送れるようになった。(2学年 生徒B)
- 勉強に集中できるのが良い。集中する時間が長くなった。(3学年 生徒C)



- 学びに接続するための選択肢の広がり
- 教職員の不登校対策に対する意識の変化
 - 発達支持的生徒指導
 - 「誰もがわかりやすい授業」
 - 「自己決定の場を位置付けた授業」
 - ICT活用スキルの向上
- 多様な生徒一人一人に最適な支援の提供

5 成果と課題

課題 ～1年目の実践を通じて見えてきたこと～

日にち	学級 生徒氏名	校時	担当	学習場所	学習教科	○	在校状況	参加した時間 不参加した時間 不参加した理由	本人の様子・こちらから伝えた内容等
10/25	金	5校時	北林	センター	自主学習	○	次の時間も学習する 下校する 下校した	15 : 10	礼儀のペン書きに入っていました。
		6校時	根田	センター	自主学習	○	下校する 下校した		電子辞書の英訳アプリをインストールして、みんなが知る前に学校を出たので、15時10分を過ぎ、下校する。
		下校担当	根田						
		受入れ担当	小北					8 : 50	
		1校時	小北	センター	自主学習	○	次の時間も学習する 下校する 下校した		国語のワークに取り組んでみると、I.P.e.d.があったら地理体感活動まで作成を行いたいとのことだったので、I.P.e.d.を渡しました。
		2校時	鈴木	センター	自主学習	○	次の時間も学習する 下校する 下校した		読書活動の学習の体感。向かい風の吹く中で、他の人の読書活動が楽しんでいる。読書活動している、他の読書活動が楽しんでいるので、読書活動が楽しんでいるから、読書活動の体感活動に挑戦します。
		3校時	村松	センター	自主学習	○	次の時間も学習する 下校する 下校した		読書活動が楽しんでいる。読書活動の体感活動に挑戦します。
		4校時	根田	センター					

◆校内教育支援センター運用

「登校する予定だったが、できなくなった」
「登校しない予定だったが調子が良さそうなので登校する」等、その日、その時の生徒の体調等に左右されることが多く、調整に労力を要する。

心身ともに不安定な生徒も多いため、今後も運用面での工夫・改善を継続する。

また、同様の理由から個別ブース設置のための衝立などハード面の整備も推進したい。

◆多様な学びの場の設定

- ・ 学びに向かう意欲を持たない生徒への働きかけ
- ・ ゆっくりと、不登校学級、その他各種機関との連携を深めるには
- ・ 意外にICTを活用した実践（授業配信等）を希望しない
- ・ 対話的な活動も取り入れたい

◆小中連携

光陽中学校区では、これまでも小中連携が多角的に進められてきたが、不登校児童生徒を生みにくい環境づくりや、不登校児童生徒への多様な学びの場の提供といった視点での連携に向けては、意識を全教職員で一層高めていく必要がある。

6 今後に向けて

～重点的な取組～

◆不登校を生じさせない学校・学級づくり

- ・ 児童生徒の情報共有や引継ぎ、その効果的活用
- ・ 誰にとってもわかりやすい授業を目指した研修、及びその共有化
- ・ 「ほっと」「心と身体のチェック」等、地域の子どもの実態把握の継続
これらのアセスメントに基づく支援の具現化
- ・ S C等と連携した自己肯定感を高める働きかけの継続
- ・ S O Sを出しやすい環境づくり、教師・児童生徒間の信頼関係の構築

小中連携

◆校内教育支援センターの効果的な運用

- ・ 一人でも多くの児童生徒を多様な学びにつなぐための働きかけ
- ・ 多様な学びを提供可能な組織・環境づくり（ソフト面・ハード面）
- ・ 家庭、児童生徒との、じっくり時間をかけた面談
- ・ タブレット端末を用いた遠隔授業、個別の学び、学びの成果の他者との共有等、生徒一人一人に合わせた実践の試行と成果の蓄積

中核校